

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000385		
法人名	社会福祉法人 幸		
事業所名	アルモニ一早瀬町		
所在地	姫路市広畑区早瀬町2丁目4番地の1		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyoVoCd=2894000385-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成29年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念が「共に生きる」～LOVEACTION～同じ時間を共有している一人の人間として足りない所を補い共に助け合い思いやりをもってたった一度の人生が実りあるものとなるようにお互いに大切にすることを基本理念とします。</p> <p>1、「楽しく」「笑碩」で暮らせるようにします。 2、一人ひとりに寄り添い、安心できる「家」を目指します。 3、利用者と職員がお互いに信頼し、尊重し合える関係を作ります。 4、地域に溶け込んでいけるようにします。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>多くの福祉事業を展開されている法人の理念と協力の中で、地域密着型サービス事業所として、本来のグループホームにおける利用者のための生活、『共に生きる』を実践されている。日々の生活を当り前に過ごす、をモットーとして、自室や居間の清掃、洗濯、食事の準備等を利用者自身が行うことを支援されている。能力をできる限り維持していくこと、手作りの料理と一緒に作り続けることに、こだわりと誇りを職員全員が持ち、家族として同じ時間を共有されている。また家族会や外出行事等で、家族間の交流があり、利用者・家族、職員が一体となってサービスの質向上に向けて努められている。地域の方の協力も厚く、認知症の理解が広がっている。管理者の利用者への深い愛情とサービスへの熱意があり、ますます今後の取り組みに期待する。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きる」の理念のもと、皆が「楽しく」「笑顔」で暮らせるよう、一人一人が安心できる「家」を目指している。また地域に溶け込んでいけるように利用者様と職員と共有できるよう実践している。毎月の職員会議にて理念に基づいた支援の在り方について話している	法人の理念「共に生きる」を基に、3つの具体的な事業所方針を掲げて職員会議で周知し、日々、ケアの中で実践に努めている。3つの方針はパンフレットに掲載されているが、事業計画書には「地域に溶け込んで行けるようにします」の項目のみが記載されているだけなので、事業計画書にも一致した記載が望まれる。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に自治会の方(会長、民生委員)達に出席していただき、事業所の内容を伝えている。地域の掃除には利用者様と共に参加し、夏・秋祭り、廃品回収にも参加している。	自治会に加入しており、地域の掃除(草引き)、秋祭り、廃品回収などの諸活動に利用者と共に参加している。運営推進会議に自治会代表や民生委員代表が参加され、意見をいただいている。地域の方に「昭和のビデオ」をいただき、利用者の方々にその時代の生活の様子を見ていただいている。また保育園から子供達が来て交流をしたり、地域のボランティアを受け入れて地域とのつながりが支援されている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお伝えし、近隣の方、独居の方が集える等地域交流の場として施設を提供し、地域の方との触れ合いの時間を計画中	/	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議で利用者佐山の様子や取り組みについての報告を行っている。地域の方や家族様と意見交換の場を十分に取り、サービスに繋げる様取り組んでいる。又利用者様にも参加していただき、和気藹々とした会議になっている	2ヶ月に1回定期的に会議が開催されており、会議の開催が定着している。会議参加者は、各ユニットの利用者及び家族、自治会代表、民生委員代表、地域包括支援センター職員、法人理事長及び事業所関係者が参加され、運営報告だけでなく、意見交換や相談が行われている。単なる会議の場としてだけでなく、利用者が地域との交流を深める場としてのこころみが進められている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用状況の報告、更新手続き、事故報告など適宜市町村と連絡を取っている。事業所連絡会に所属し情報交換や交流に努めている	毎月の利用状況のFax送信、更新手続き、事故報告などで市担当者で連絡を取っている。運営推進会議に毎回出席される地域包括支援センター職員と協力関係を築いたり、定期的に開催される事業所連絡会に出席して情報交換を図り、ケアサービスの向上に努めている。運営推進会議の議事録を市担当者に送付するのも事業所の協力姿勢をアピールする手段になるのでは。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	他の身体拘束はしていないが、玄関の施錠、エレベーターの施錠はしている。家族様に説明をし承諾書は頂いている。しかし、常態化しないよう日中の一時間だけ解錠している	毎年定期的に身体拘束廃止の研修が法人の医療委員会主催で実施されており、参加できる職員は参加し、職員会議で伝達研修も行われている。重要事項説明書にも身体拘束廃止を明確に謳って利用者家族にも説明されている。現在、玄関の施錠については、施錠が常態化しないように時間を定めて開錠が実施されている。今後は、指定基準に定める禁止事項を再確認すると共に(1)開錠の間、どうであったか(2)施錠の間はどうであったかを記録しながら更なる向上を目指して実践していくことが望まれる。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は全体会議、接遇人権虐待予防委員会、職員会議で勉強を行っている。新入職時には個別に教育時間を持っている	重要事項説明書に利用者の人権擁護、及び虐待防止に関する事項を定めており、法人の接遇人権虐待予防委員会が毎年定期的に主催する研修に職員が参加し、職員会議で伝達研修を行い、共有を図っている。管理者は毎朝、夜勤勤務者に対してねぎらいの声掛けを行うと共に虐待の有無についてチェックしている。また管理者は夜勤者の不安等に気を配り、職員のストレスを汲み取るように努めている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者の研修等で学んだ事を会議等で報告している	法人の接遇人権虐待予防委員会が毎年定期的に開催する研修に参加し、職員会議で伝達研修を行い共有を図っている。現在、成年後見制度の利用者はなく、案内パンフレットは設置されていない。制度の利用について、後見人として社会福祉士、司法書士それぞれの場合の違いなどの概要を理解しておくことが望まれる。	利用者家族への情報提供のためにパンフレットを設置すると共に、制度の利用について後見人として社会福祉士、司法書士それぞれの場合の違いなどの大まかなことを職員が理解しておくことが望まれる。
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っており、別途承諾書等が必要になった時はその都度説明をしている。家族会等でも質問を受け付け納得いただくよう努めている	入居契約前に利用者・家族に必ず見学してもらい、パンフレットを見てもらっている。事業所のできることやできないこと、利用料金、退去のことなどを説明している。契約に際しては事業所にて管理者が立ち合い、契約書、重要事項説明書を丁寧に説明し納得理解の上で契約を締結している。緊急時の搬送や終末期の対応、看取りについても説明が行われている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様にアンケートをお願いし、その結果を踏まえ会議等で話し合う場を持っている	運営推進会議に3～4家族が参加され、意見・要望が出されており、運営に反映されている。また年1回併設サービスの特別養護老人ホームと合同で家族会を開催し、サービス毎に別々に分かれた会議の中で取り組みなどの話があり、家族からも意見が出されている。合同会議では嘱託医を招き、看取り介護や災害時の対応について話がされている。会議の議事録は全家族に配布されている。年1回「利用者家族アンケート」が実施されており、アンケートで集約された意見等は職員会議で話し合われている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議にて意見交換の場を設けている。必要に応じては都度時間を設けている。	毎月1回職員会議が開催され、座談会形式で業務よりも悩みの話が出されている。職員の退職に起因する職場体制、勤務態様などについていろいろ意見が出されている。管理者はその都度、職員の思いを受け止め、適宜対応に努めている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度、法人の各部署管理者が集まり連絡会議をしている。そこで大まかな課題の把握を行っている。随時、施設に行き、管理者から報告や相談を受け、それに応じて個々の職員と話をする。年に一度は全職員と個人面談を行い、個別の提案、相談に応じて職場環境の改善を図っている		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やケアマネージャー、フロアリーダー等より直接、状況を聞く機会を設けている。また、一人ひとりの力量に応じたOJT指導は現場の管理者に任せているが、法人内部研修や外部研修にできるだけ参加できるよう配慮している		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会議に管理者が出席し近隣の同業者と情報交換を行っている。また、代表の人的ネットワークを活用して同業者に相談したり視察したりしながらサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	モニタリングであったり、困った事があった時はその都度聞いて早急に解決できるようにしている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ず利用者様の様子をお伝えし、家族様の要望や不安等話しやすい雰囲気を作っている。また、アンケートを取る等、言いやすい環境を作っている		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応等は家族様を交えその都度話し合いをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には「相手の立場に立ち、自分だったらどうして欲しいか考えて」と、伝えている。日々の生活の中で、意見や希望を伺い、それをサービスに反映できるよう、職員間で情報共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	モニタリングであったり、面会時でお話をしたりして良好な関係を築けるようにしている。行事に積極的に参加していただいたり、家族会の開催などを行い、家族同志の繋がりも大事にしている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様と一緒に馴染みのお店に食事に行かれたり、誕生日には、馴染みのケーキ屋さんに行っている	入居時にケアマネジャーが利用者と面接してアセスメントで得た「家族構成、趣味、特技など」の情報を生かして、日頃のお付き合いから知ってもらったり、していただいたりしていく中で支援に努めている。友達や親戚の方が訪ねて来られることもあり、はがきや手紙を出される方の支援をすることも。しかしながら、管理者はこの一年は馴染みの関係継続の支援の取り組みが薄くなっていたことを認識されている。	利用者がどこで生れ、何をされていたのか、生き方の接点はどこにあるのかなど関係性になるものを掘り起こし、馴染みの関係継続の支援に繋げていくことを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない方もいたり、時には口喧嘩になることもあるが、違うフロアーに行ったり、散歩に出かけたりして気分転換の時間を持っている。食事の配膳をしたり、洗濯物をたたんで届けたり、お互い出来ることで助け合い、良好な関係を築けるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になられても機会があれば訪問したり、その後の相談等を受ける旨を必ず伝えるようにしている		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が、一人一人にじっくり関わり、本人の困り事や希望を聞いている。思いの表出が困難な方には、家族様に都度聞くように努めている	担当職員が暮らしの中で利用者に寄り添い、思いや意向を聞き取ってケアチェック表に記録し支援に努めている。利用者一人ひとりの生い立ち、趣味、特技、これまでの生き方などから意向を確認し、人生の最終章の段階にあってこれまでの生き方をどのように継続していくか、思いを掘り起こし寄り添っていく支援を望みたい。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時に本人、家族様より生活歴を聞き把握に努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに基づき、毎日出来ているかチェックし、確認したり、職員間の情報交換を行い「気づき」のケアに努めている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人の意向、家族様の思いを聞き、管理者、ケアマネージャー、職員とモニタリングを行い、ケアプランを作成している	日々の利用者の状態をケアチェック表に記録し、半年ごとにモニタリング・評価を実施している。半年ごとに利用者、家族、担当職員、ケアマネージャー、管理者などの関係者による担当者会議を開催し、利用者家族の意向を踏まえながら、介護計画を作成している。担当者会議前には、適宜、訪問看護師に意見を聞き、介護計画に反映するようにされている。また本人、家族の要望や変化が生じた場合には、臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り時や、毎月の職員会議で気づいた点などをあげ、その都度話し合いをしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の希望や、問題点があれば、どう対応をしたら良いのか都度ミニカンファレンスを持ち、ニーズに答えられる様にしている		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域包括の方にも参加して頂き、いろんな地域の情報を頂いている		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連携を取っている、他の受診は家族様希望だが、その都度提案・助言はしている。家族様の不安な様子があれば、かかりつけ医との話し合いの場も持っている	利用者本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。数名の方が入居以前からの認知症疾患の専門医を受診しており、基本的に家族が通院同行しているが、止むを得ない場合は、事業所側で通院介助を行っている。入居時に事業所は利用者家族に協力医療機関の内科医(嘱託医)受診について説明し同意を得た上で、全ての利用者は協力医の内科医を受診している。協力医療機関の内科医は2週間に1回、歯科医は週1回の往診がある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医と看護師とは24時間の連絡体制を確保し、直ぐに適切な対応が取れるような体制を取っている		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供表を提出している。お見舞い時には病状の把握、本人、家族様の意向を伺い看護師と連絡を取っている。又、退院時にはカンファレンスに出席している。退院後の受診の際、情報提供表も提出している	入院時は情報提供表を提出し、入院中は管理者またはケアマネジャーが見舞いを兼ねて病状把握を行い、早期退院に向けて利用者家族及び医療機関と協力連携に努めている。退院時には退院時カンファレンスに出席し、看護サマリーを入手して退院後の支援に生かしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合、併設の特養への入所の案内を行ったり、看取りに関しては、ケースによって、家族様の同意、環境などの要件が整った場合に行うことも視野に入れ取り組んでいることを伝えている	入居時に緊急時における救急搬送や重度化した場合における対応に係る指針について説明し、同意書を交わしている。入居後、重度化に応じて段階的に説明し、看取り介護の支援を行っており、職員はターミナルケアの研修を受講している。この1年間に数件の看取りの事例がある。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変があった時、その時の対応の問題点等振り返りを行い、会議、朝夕の申し送り時に話し合っている。年に一度は勉強会をしている		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。日勤、夜間想定と分け、不参加の職員には、写真等で伝えている。災害の備えて食料・飲料水などの防災食の準備も行っている	年2回の消防訓練のうち1回は消防署立ち合いの基に行われている。初期消火、通報訓練、昼夜想定避難訓練が行われている。防災マップに沿って避難誘導が行われており、マップが事務室に掲示されている。運営推進会議で地域の協力依頼も行われている。3日分の食料・水や懐中電灯の備蓄もされている。事業所は、今後は2～3か月に1回定期的に洪水、台風、地震などの他災害についても避難訓練を実施していく意向である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の接遇人権虐待予防委員会に職員が参加し、学んだ事を職員会議で伝えている。職員に不適切な対応があった時は適宜指導している	職員は月1回、法人の接遇人権虐待予防委員会が主催する研修に参加しており、毎月1回開催される職員会議では伝達研修が行われている。利用者を「さん」付けて丁寧に呼ぶようになっている。管理者は、誇りやプライバシーを損ねるような不適切な言葉かけには都度、注意をしている。職員同士でお互いに注意し合う仕組みがあれば更に望ましいのでは。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度の関わりの中で、本人の思いが汲み取れるよう言葉かけをしている。様子に変化が見られた時は、職員で共有し対応している		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で行うことは一緒にしているが、個々の希望を優先し、その人のペースに合った生活をしてもらっている		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んでもらったり、朝お化粧をしてもらったり、好きな装飾品を付けている。月1回の理美容の日は、好みの髪形にして頂いている		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会を中心に、旬な食材を使った食事、行事食を企画している。調理、盛り付け、片付けなども一緒に行っている。一緒に食事をする中で、和気あいあいとした雰囲気の中で食事を楽しんでいる	三食、毎日職員と利用者で調理が行われている。一週間ごとに職員が利用者の希望を聞きながら献立を作成し、食材の買い物から、下ごしらえ、調理から後片付けまで、利用者と一緒にしている。「昔は畑で、いっぱい作った。」職員も同じものを一緒に食べながら、話が弾む。おいしいなあ。と作る喜びを分かち合う風景が伺えた。嚥下状態に合わせて、トロミや刻み食などの工夫も見られた。	

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らない様、必要な栄養素を一週間ごとの献立の中で見直している。個別の水分チェック表を基に必要な水分の確保に努めている。食事についての研修会にも参加している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事前の嗽、食後の口腔ケアは行っている。一緒に食事をしながら、食事時の摂取状況を観察し、必要時には歯科往診の依頼をしている		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、排泄パターンの把握に努め、日々の申し送りの中で迅速に対応している	定期誘導を行い、排せつ表を記録し、一人一人の排せつパターンを把握している。夜間帯もトイレでの排泄を基本として自立に向けた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の野菜を多く取り入れたり、果物、乳製品などの提供、水分量の確保、便秘傾向の利用者様には便通をよくするお茶を提供したり、レクリエーションの中で運動が出来るような取り組みをしている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回と決めているが、入浴拒否、体調不良等で入れない時はその曜日でも入ってもらっている。ゆず湯など気分的にリラックスできるような環境作りにも努めている。好みの湯温に合わせている	現在は週2回の入浴としている。時間帯も決められているが、職員の定着等が整えば、柔軟に対応予定である。入浴剤やゆず湯などで、入浴を楽しむことができるように配慮されている。その人の好みの湯の温度などにも気を配られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一応入眠、起床時間は決まっているが、希望に応じて対応している。生活習慣を大切にしている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要な時は、個人のお薬の説明書で確認を行っている。又、確実に服用が出来るよう、個々に工夫している。薬に変更があれば、数日朝夕の申し送りにて、状態報告し、看護師とも共有している		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の特技や趣味を聞き、ケアプラン等に組み入れ支援出来るようにしている		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物の同行、地域の夏、秋祭り、溝掃除に参加した。又家族様と共にお花見行った。誕生日には家族様と共に外出が出来るよう、連絡を取り合い、外出される利用者様もあった	週に一度程度の散歩、食材の買い物、2か月に一度程度の外食、喫茶店でコーヒーを飲んだり、地域行事などに出かけている。季節の花見やドライブなどには、家族にも参加していただいている。利用者の誕生日には、家族に連絡をし、家族と共に過ごせる機会を大切にするように、支援が行われている。	職員間で話し合い、一人ひとりにあった、その日の希望に沿った個別外出支援や、リハビリを目的とした歩行訓練としての散歩などを検討してほしい。また本人の意欲や自立を保つために、日常的な外出に限らず、行きたい場所、懐かしいところ、墓参りなど本人の思いを引き出し、思いに沿った外出支援に期待したい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様から、お金を預り希望時には一緒に買いに行っている。自分のお金を持っておくことで落ち着かれる利用者様は、家族様と同意の上、所持されている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられたり、必要に応じて施設の電話を使用している。手紙のやり取りが可能な利用者様は少ないが、希望があれば一緒にしている		
52 (23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が解るようにその季節に合った掲示物を共に作成し、レクリエーションの中に季節の歌を組み込んでいる。季節ごとに、玄関やテラスの花の植え替えもしている	広く明るい居間にりっぱな雑壇が飾られ、掘りごたつで、洗濯物を利用者がたたまれていると伺った。食卓と窓際にソファが置かれ、掃き出し窓から外の景色が見える。本箱にはいろいろな書物が並べられ、思い思いの場所で生活できるように配慮されている。平行棒で歩行訓練したり、囲碁をするなど、楽しめるように工夫されている。季節の花や観葉植物、湿温計などで環境の管理がなされている。	

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、掘りごたつ、食事席等思い思いの場所で過ごせるように環境を整えている。また、馴染みの個人の椅子も用意している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の作品や好きな物、施設内で作った作品を飾っている。馴染の家具、お気に入りの鞆、帽子、家族の写真等並べ、ふとした時に落ち着けるようにしている	使い慣れた椅子やテーブル、タンスなど馴染みの家具が持ち込まれている。昔の本人の写真、家族の写真などが飾られ、書道作品、書物、テレビなどで、個性にあった居室づくりがされている。整理整頓が行き届いており、居心地よく過ごせるように支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さもその方の下腿長に合わせている。自分で安全に立てるよう、L字バーの使用、ベッド柵を考慮している		